



優れた、頼もしいスタッフに
恵まれています。

東郷湖畔に、とつぜん中国四千年の古都が出現している。まるで蜃気楼のようだが、まぎれもなく実在。「中国庭園・燕趙園」である。設計から施工まですべて中国で行われ、いったん解体して日本に運ばれ、中国人技術者が再建設。歴代皇帝が親しんだままの本格中国庭園である。なぜこの壮大な施設が湯梨浜の町に？

「鳥取県と中国河北省の友好のシンボルです。鳥取は梨で有名、河北省も梨の名産地、梨が取り持つご縁です」と、園長の亀田美香江さん(写真中央)に教わる。若きころアーチェリーの選手として、1985年に鳥取県で開催された「わかとり国体」にも出場経験をもつ人。穏やかな物腰ながら、ここぞという時に発揮する集中力は選手生活で鍛えられたのだろう。スタッフから全幅の信頼を得ていることがよくわかる。

かつて鳥取県が河北省に農業の技術指導を行なった。その返礼として中国庭園の建設を、という運びとなったが、では鳥取県のどこにするか。「中国から訪れた方々は、三方を山に囲まれ、一方が東郷湖の水景色という立地が故国によく似ているということ……」この地に決めたのだった。園長は生まれも育ちも当地である。しばらく他の地に赴任し、ここへ帰ってきたときは里帰りの気分だった。東郷湖の辺りの、まさしく水墨画のような景色への愛着はいっそう深まっている。

燕趙園
亀田美香江



ゆ
う
ゆ
う、
ゆ
り
は
ま